

poco a poco

パラグアイ便り 2023/04/03 Número2

2022年度 青年海外協力隊

氏名：吉田 花純

職種：小学校教育

こんにちは。サマータイムが終了し時差が12時間から13時間になりましたが、厳しい暑さはまだまだ続きそうです。早いもので任地での生活も一ヶ月が経とうとしています。日本との違い、首都アスンシオンとの違いなどに、驚き、戸惑い、そして時に落ち込むことも多々ありますが、親切なパラグアイの方々のおかげで、今のところ一度も体調を崩さずに元気にやっています。チクングニア熱という蚊の病気が大流行しており、同僚や家族が日替わりでかかっています。いつ自分がその病気にかかってもおかしくない状況で少し怖いですが、引き続きできるだけの虫除け対策を続けていきます。

【虫との壮絶な闘い】

今のところ、生活していく上で一番苦労していることは、何と言っても『害虫対策・害虫駆除』です。見たことのない種類の虫、日本にも生息しているものの明らかに大きさや見た目が違う虫（例：ゴキブリ・トカゲ・ヤモリ・蜘蛛・紙魚・蜂・蠅・蟻）、そんな虫たちを相手に毎日奮闘しています。どれだけ対策をしたり清掃をしたりしていても、次から次へと家の中で虫と遭遇します。冷蔵庫の中、洗ったばかりの食器の上、蚊帳の網目をくぐり抜けて枕元、水場（シャワーとトイレ、手洗い場が一つになっている場所）など、『そこだけは勘弁して。』という場所にも容赦なく出現します。まさに虫好きにとってはたまらない楽園のような場所です。ちなみに、パラグアイの方に虫について聞くと、パラグアイは大変蒸し暑い気候のため、基本的には年中虫がたくさん生息しているとのことでした。

虫との共同生活を楽しめるようになれば一番楽だとは思いますが、ストレスに感じない程度に少しずつ慣れていけたらと思います。初日と比べると、私もずいぶんたくましくなりました。帰国時の自分の成長に乞うご期待です。



本当はここに本物の虫の写真を載せたいところです。。。

【私の虫除け対策】

〈毎日〉

- ・掃き掃除（3回）
- ・虫除けスプレー・殺虫剤・蚊帳・虫除けタブレット等の使用
- ・衣服や食料品等をすべて種類毎に袋に入れて保管
- ・衣服や靴の着用時には虫が付着していないかを必ず確認
- ・菓子類は外で食べる等

〈毎週末〉

- ・シーツの交換
- ・殺虫成分入りの液体を使って、手が届くところはすべて水拭き
- ・可能なものはすべて天日干し等

殺虫剤や虫除けスプレーは、必ず予備(↓)を用意しています。



まだまだ他にもたくさん使っています！

【家族を大切にするパラグアイ】

パラグアイの方々は、“家族との時間”を何よりも大切にしているように感じています。パラグアイの人が言う“家族”とは、日本人にとっての“親戚”を網羅するほど幅広いものであり、初めて『ある家族の誕生日会』へ参加した際、30人以上が集まっていたため圧倒されました。また、それだけ多くの“家族”があちらこちらに点在しているため、頻りに誕生日会に参加する機会があります。

私にも、パラグアイでの“家族”ができました。現在はひとり暮らしをしていますが、ある家族の皆さんにとってもお世話になっています。まるで本当の家族の一員になったかのように、家族の行事に参加させてもらったり、ただただ何をやるわけでもなく一緒にテレビを見ながら会話を楽しんだりするなど、金・土・日はほとんど一緒に過ごしています。また、夫婦同士、家族同士の愛情表現を、“伝えたいときに心のままに大胆に伝える”そのスタイルが、とても素敵であると感じています。

私のような外国人でもすぐに仲間に入れようとしてくれる寛容なパラグアイの方々。ここでできた家族や友人たちに声をかけてもらい、いくつかのパーティーにも参加させてもらいました。



ベビーシャワー



幼稚園や小学校でも、保護者が飾り付けやケーキ、お菓子、お土産などを用意して、クラスのみならずお誕生日会をすることもあります



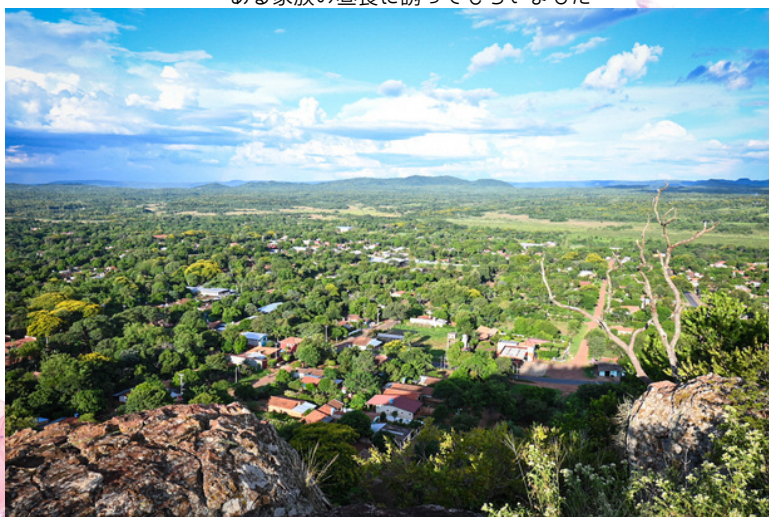
パラグアイ料理(ポリポリ)を教わりました



ある家族の昼食に誘ってもらいました



誰が主役が分からないほどにぎやかなパーティーでした



軽登山に連れて行ってもらいました

【あれこれ考えずに、まずは“ やってみよう”】

“パラグアイの学校について知ること”が、一ヶ月目の活動においての目標でした。そのため、全学年全教科、子どもたちに混ざって一緒に授業を受けることから始めました。Danza Paraguaya (伝統ダンス)、Zumba(エクササイズ)、パラグアイ人が愛して止まないサッカーなどにも挑戦しました。言葉が分からなくて困ったときには、頼もしい“先生”である子どもたちに助けをもらいます。スペイン語とグアラニー語を自由自在に操る子どもたちが、今の自分にとってはまぶしくて仕方がありません。「これはグアラニー語で何と言うの？」とスペイン語で質問すると、目を輝かせて得意気に教えてくれるので、とても嬉しいです。日本の子どもたちの笑顔もとても素敵ですが、パラグアイの子どもたちの笑顔もまたとびきり可愛いです。



子どもたちの笑顔が素敵です



Danza Paraguayaに挑戦しました



伝統料理チパを作りました

職員研修会の場でプレゼンテーションを行う機会をいただきました。初回のプレゼンテーションは、日本の学校紹介を中心に行いました。私自身がそうであったように、パラグアイの先生方も、あまりにも異なる日本とパラグアイの学校の違いに大きな衝撃を受けたようです。白熱した討論を終えた後の私のプレゼンテーションでしたが、違いを楽しみながら興味津々に聞いて下さいました。中でもパラグアイの先生方が一番衝撃を受けていたのは、朝食とmerienda(午後のおやつ)、cantina(お菓子やジュース、おもちゃが売っているお店)が日本の学校には無いことでした。パラグアイでは一日に5食を食べることが一般的だそうです。確かに、小さな子どもたちでも本当によく食べるという印象を受けています。

他には、日本の美しい校舎やテレビ・パソコン・タブレットなど多くの電子機器類が充実している点が羨ましいと感動されていました。



パラグアイと日本の学校の違いを楽しみながら話を聞いていただきました

【ひとこと】

派遣前訓練で出会った同期の隊員たちが、世界中のあちこちで今現在、私と同じようにそれぞれの活動をしています。久しぶりに連絡を取るとみんな決まって「なんとか元気にやっているよ。」という返事が返ってきます。特に初めて過ごす一ヶ月目であったため、自分では平気なつもり、元気なつもりであっても、知らぬ間にストレスが蓄積されていると感じることもありました。少し疲れていると感じた日には思い切って早めに寝てしまうこと、食べたい物があるうちは元気である証拠のため我慢しないこと。これらを意識して、私もなんとか元気にやっています！